

## 文化・芸術

### 「自画像」

2021年、106・0センチ×106・0センチ  
アクリルグワッシュ、インク、水彩紙

（撮影：木暮伸也）

### 宗像りゆうじ（1964年）

小さな紙をつなぎ合わせて、カラーサインペンで短く細い線をくりかえしながら、ひとつのイメージを追いかけています。でも、どこかオートマチックに連続して描く行為自体の痕跡のようにもみえます。しかも、作品を壁に掛ける、貼るといふよりも、つるしてあるので、かえって宙に浮いたような軽さが、描くという行為の痕跡をとどめる表面に向けられているようにとても新鮮です。

「自画像」と題されたこの作品も、描かれているのは作者の後ろ姿のようですが、点描のようなペンの跡とつなぎ合わせた紙の凹凸が、繊細さと軽さを際立たせています。一方で今回の展示では、そうした表面への関心が、感染予防の飛沫（ひまつ）をよけるための透明なビニールシートに着目して、そこに巨大なバクのイメージを描きはじめられていますので、この不穏さもあわせてご覧ください。

（田中）

### 〈名画の扉〉

大川美術館「桐生のアーティスト  
2021 Kiryu POP」から

